

# 『歩く県道(東松峠)』の道普請による 実証実験と検討会を開催しました。

県道別・舟渡線(東松峠)の交通不能区間を整備し、歩く県道として保全していくにあたり、地元の人たちやボランティアの方々で維持修繕が可能な工法を確立するための実証実験を行いました。

平成23年11月19日、20日の2日間、東松峠において、環境デザイナーの田賀陽介氏の指導のもとで東北芸術工科大学の広瀬先生、渡部先生はじめ建築・環境デザイン学科の学生の皆さん、東松峠を護る会の皆さん、会津若松建設事務所関係者など延べ55人が参加し、沢止工、横断開渠工、山側側溝工、丸太埋込み工などを施工しました。



## ～歩く県道としての整備・保全の仕方について話し合いました～

道普請終了後、越後街道の宿場で大正の末まで旅館を営んでいた松原屋(東松峠を護る会会長小久保善一さんのお宅)において検討会を開催し、作業に参加した方々から作業上の問題点や工法における工夫すべき点などの意見を聞きました。

- 東松峠を護る会の方々が丁寧に保全されている伝統的な工法で施工する。
- 工法は適切だが、今後一般の方々が出来るように技術的な指導が必要。
- 歩く県道として機能的な意味も考える必要がある。
- 県と町と地域が協働していくことが必要。
- どういう形でつなげていくかが今後の課題。



## ～参加した学生さんから聞きました～

- 東松峠を護る会の方々が護ってきた道を歩けて幸せでした。
- コンクリートに頼らない施工が勉強になりました。
- 街道の景色が色々に変化し、歩いていて楽しかった。
- 作業は大変でしたが、回りの綺麗な景色に癒されました。
- 長く継続されている活動に参加出来てうれしかった。
- 自然の材料を使用しての作業は、ぬくもりがあって良かった。

